

#在院生インタビュー

論文指導教授陣の豊富な実務歴



令和4年度入学生
法学研究科法律学専攻
A・Kさん

#01

（１）税理士の道を目指した理由

私は企業支援の仕事をしているのですが、お客様から税務に関する質問が多かったことから、はじめに会計の勉強として簿記検定 3 級・2 級を取得し、そこからさらに知識を高めたいと思い、税理士試験の会計 2 科目を取得した段階で、自分の中での目標は達成したなと思っていましたが、最近になって税法に関する質問も増えてきたことから税法の知識もつけたいと思い大学院進学を決めました。

最初こそ、税法の勉強ができればと思っていたのですが、会計 2 科目が合格していることもあったので、せっかくなら大学院で税法 2 科目免除後に、残りの税法 1 科目を試験で合格し、そのうえで、税理士資格を持った企業支援者を目指そうと思うようになりました。

（２）平成国際大学大学院を選んだ理由

主なご支援先が埼玉県ということもあったので、大学院は埼玉県内であることが大前提でした。

本学以外にもいくつか検討していた所もありましたが、さいたま新都心駅から徒歩 2 分というアクセスの良さと、論文指導を行う先生方の実務経歴から最終的にここに決めました。やっぱり現場を知っている先生がいるのってすごく説得力がありますし、実務にも生かしたいと思っていた自分にとってはとても魅力的でした。

（３）研究テーマ

私の研究テーマは、「法人税法における役員給与の損金不算入について」です。このテーマにした理由は、企業支援をしている身として、絶対“法人税法”を扱いたいと思っていました。

その中で何か興味のあるものや実務に生かせるもので、訴訟の多いものがないかなと考えた末に、本テーマが自分のやりたいことに当てはまっていました。

（４）学びの中で、最も印象に残っているエピソード

金沢先生の演習で、先生から１つ訴訟事件を与えられて、それを研究テーマとして１５ページほどにまとめて発表するというのがあったのですが、まとめるまでに、条文を読み・事件の判決文を読み・租税法学者の評釈を読んだうえで自分なりの意見を出すといういわばプチ論文の作成は、初めてだったので印象に強く残っています。

というのも、もともと私は理系の大学院を修了していて、修士論文の作成経験があったので税法に関する論文作成についてもおおよそイメージはありましたが、やっぱり理系の論文とはまったくジャンルが違ったのでとても新鮮でした。

（５）今後の目標

なるべく早く修士論文を書き上げたいです。そして大学院修了後は、残りの税法１科目を取得し税理士資格を取得することと、企業支援者として税法に強い人になりたいです。

（６）受験生へ一言

埼玉県内で大学院を探している方については、アクセスの良さと先生方の実務経験等に基づくノウハウ、お人柄、丁寧な指導体制がこの良い所なので、大学院を選ぶ一つのきっかけにしてもらえるといいなと思います。私自身、ここに入ってよかったと思うことばかりです。

みなさんがこのインタビューを見て興味を持ってもらえたら嬉しいです。

#在院生インタビュー

一人一人のレベルに合わせた 丁寧な指導



令和4年度入学生
法学研究科法律学専攻
H・Kさん

#02

(1) 税理士の道を目指した理由

私の家は父親、祖父とその前から代々税理士なのですが、私自身は、大学卒業まではまったく税理士の道を目指そうとは思っていませんでした。

ただ、自分の会社を作りたいという目標があって、そこで会社を立ち上げるには定款の作成や税務署への書類提出等、いろいろと手続きが必要であることを知り、そのために司法書士や税理士に依頼するとお金がかかってしまうことも知りました。だったらすべて自分でやっと思おうと思って。このとき初めて税理士の仕事内容について興味を持ったことと家族が税理士ということもあり目指すことを決めました。

大学卒業後、いくつかの税理士事務所へ勤務した後に、大学院進学を決めました。

(2) 平成国際大学大学院を選んだ理由

過去に勤務していた税理士事務所でこの修了生 2 人と出会ったことがきっかけです。大学院自体は、税理士を目指すとした段階で進学を検討していましたが、どこの大学院にすればいいか迷っていました。

そんなときに、修了生の方と出会い、平成国際大学大学院を勧められたことやアクセスの良さ、懇切丁寧な指導体制、指導教員のご経歴等から総合的に見て、通うことを決めました。

(3) 研究テーマ

私の研究テーマは、「各種所得の控除項目について」です。このテーマにした理由は、会計事務所で勤務していると、顧問先の規模や業種、そのときの状況により、必要経費の概念が変化することに自分自身その仕組みを理解しきれていない所があり、実務においても困ることがないようにあえて修士論文テーマとして取り上げることにしました。

（４）学びの中で、最も印象に残っているエピソード

1 年生の時に受講していた「民法特殊研究Ⅳ」は、先生が民法初心者にも分かりやすく説明してくださったことと参加型の講義というのもあって印象に残っています。この講義では、ホワイトボードに事件の概要を図に書く役割の人、事件の内容を読み上げる役割の人、最終的にどのようなになったかを自分で考えて答える役割の人に分かれて行ったのですが、今までやったことがなかったので新鮮で、楽しく講義を受けることができました。

民法の解釈の仕方等、税法で生かせるものを税法以外で学べたということはとても良かったです。

（５）今後の目標

大学院を無事に修了した後は、残りの税理士試験科目合格をし、税理士登録することです。将来的には実家の税理士事務所を継ぐか、独立事務所を開業したいと考えています。

また、修了後も同級生や先輩方との“横のつながり”を大切にしていきたいです。

（６）受験生へ一言

税理士事務所等に勤めながらですと、繁忙期はなにかと大変かと思いますが、その時は講義での発表の順番を変えていただいたり、少人数制だからこそ融通が利くことは大変助っていますし、指導教員である金沢先生は、一人一人のレベルに合わせた指導をしてくださるので、まったくの未経験者でも安心して勉強することができます。

また、私は税理士試験科目が 1 つも合格していない状況で大学院に入学していますが、大学院から入って、法の仕組みを理解したうえで税理士試験に取り組むことも効率的で良いかなと思います。

#在院生インタビュー

未経験者でも安心の指導体制



令和4年度入学生
法学研究科法律学専攻
M・Mさん

#03

（１）税理士の道を目指した理由

簿記検定資格を取得のために勉強を始めたところ、簿記の計算が楽しくなり、受験級を上げていくうちに「税理士試験」があることを知りました。

せっかくなら税理士試験も受けてみよう、まず受験資格を得ることからはじめ、本格的に試験へ向けて勉強をしていくなか、“税理士”という職業に興味をもち、目指すことを決めました。

また、税理士試験の勉強で得る知識と、税理士になった後での実務では差があることを知り、私は法学部出身ではなかったので、税理士になった後でも生かせる勉強をしたいと思って、税法1科目取得を機に、大学院進学を決めました。

（２）平成国際大学大学院を選んだ理由

少人数体制で指導を行っていることが最大の決め手でした。大学院選びの際、今まで論文を作成したことがない未経験者の私が無事に大学院を卒業できるのかな…と不安な気持ちだったのですが、入試説明会へオンライン参加したときに、説明会をご担当くださった金沢先生から、少人数で指導を行っていることや、私のように未経験者でも修士論文を完成させ、卒業できていることを聞いて、ここなら安心して通える！と思いました。

もちろん、自宅から通いやすいというのもありましたが、仮に平成国際大学大学院が都内にあったとしてもここに決めていたと思います。

（３）研究テーマについて

私の研究テーマは、「給与所得該当性の判断基準について」です。このテーマにした理由は、大学生のときに選択科目として受講した「税法」の講義のなかで、「弁護士顧問料事件」の裁判例をテーマにした講義にとっても興味をもったのがきっかけです。

（４）学びの中で、最も印象に残っているエピソード

金沢先生の第１回目の判例研究（レポート作成）は思い入れがあります。入学当時は、何もわからないなかでの論文の読み込みや、論理的に自分の主張をすることの難しさを痛感し、とても苦労しましたが、先生のこまめなチェックとアドバイスのおかげで、段々とできるようになったときは本当に感動しました。苦労してきた過程も含めて得たこの成功体験が、その後の講義を受けるうえで、自信にもつながりました。

（５）今後の目標

まずは修士論文を書き上げることと、修了後は、大学院で学んだことを生かしながら会計事務所で働いて、実務経験を積むことです。即戦力として活躍できる税理士になりたいです。

（６）受験生へ一言

仕事をしながら通う人がほとんどかと思いますが、その中でのレポート作成や発表は辛いときもあるしやっぱり大変です。それでも大学院修了後には確実に現場で生かせるものになっていると私は思っています。無駄なものなんて一つもないというか、何のためにここで学ぶのか。この目的さえしっかりあれば大学院で学ぶことに意味があると思います。

私の場合、「少人数制」と「未経験者でも丁寧に指導してもらえる」という点で平成国際大学大学院を選んでいるので、自分に合った授業スタイルを考えて大学院を選んでいただけたらと思います。

#在院生インタビュー

さいたま新都心駅から 徒歩2分の好立地



令和4年度入学生
法学研究科法律学専攻
Y・Mさん

#04

(1) 税理士の道を目指した理由

もともとは会社員（営業）をしていたのですが、結婚を機に将来を見据えたときに、今の仕事のままじゃ家庭を支えられない、もっと将来に繋がる仕事をしたいと思って。そのためには、難しい資格を取得しようと色々調べていくうちに「税理士資格」の存在を知り、この資格の取得を目指し始めたのがきっかけです。

最初は簿記検定3級を取ることからはじめ、その後、計4年間で税理士試験科目を3科目合格しましたが、残りの2科目は子育てや仕事の都合で試験勉強に十分な時間を取ることができず、なかなか受からずにいました。大学院で科目免除ができることは知っていたので、子育ても落ち着いたタイミングで大学院進学を決めました。

(2) 平成国際大学大学院を選んだ理由

自宅から通える距離だったことです。

私は栃木県に住んでいるのですが、そこから定期的に通うとなるとやはり都内の大学院は難しく、選択肢が絞られていく中で、平成国際大学大学院は、さいたま新都心駅にあるので、通いやすいことと、知り合いが卒業生だったこともあったのが決め手でした。

(3) 研究テーマについて

私の研究テーマは、「適格請求書等保存方式について」です。いわゆる「インボイス制度」について論文作成しようと現在、様々な文献を読んでいます。このテーマにしたのは、旬な話題であることと、他の人とあまり被らないテーマで完成させたいと思ったからです。

(4) 学びの中で、最も印象に残っているエピソード

やっぱり演習形式の講義ですかね。毎回新たな気づきに出会えるのがよかったです。特に印象的なのは、以前、1年生と2年生でとあるテーマについてすごく熱く議論しあった場面があって、どちらも譲らない考えを持っていたのもあって、聞いていてとてもハラハラしたのを覚えています。大学院には若い方から年配の方までと様々な方がいますが、年齢とか関係なく言い合える環境があるのは良い所だなと思いました。

あと、同級生との交流は社会人である自分にとって、とても貴重なものですね。今まで税理士試験の勉強は一人でやってきていたので、同じ目標をもった仲間と一緒に勉強できることは、心強さもあり、いい意味で緊張感を持たせてくれて、対面ならではの良さがあると感じました。

(5) 今後の目標

修士論文を書き上げ、無事に修了することと、税理士資格を得た後は独立を考えています。

自分の事務所を立ち上げて、時間に縛られない自由な働き方を目指したいです。

(6) 受験生へ一言

受験生のほとんどが社会人だと思われますが、仕事の調整や体力面での心配については、結局のところ“本人のやる気次第”だと思います。もちろん職種にもよりますが、意外となんとかかなります（笑）それこそ、土曜日の昼間に授業とか、入学前まではどこか億劫に感じていましたが、実際講義を受けていると、土曜日の時間を有効に使えているという実感があり、総合的に見てもやっぱり通ってよかったと感じます。

現在、大学院に行くことを迷われている方は、一度入試説明会に足を運んでみるとか、まずは一歩、行動してみてください。